

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390200063		
法人名	有限会社 ラポール新世園		
事業所名	グループホーム きずなの郷		
所在地	熊本県八代市古閑下町2225		
自己評価作成日	平成28年 1月 28日	評価結果市町村受理日	平成28年4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOまい
所在地	熊本市中央区草葉町1-13-205
訪問調査日	平成28年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

* 利用者一人一人のその人らしい生活を大切に継続して穏やかに暮らせるように支援して行きたい。又、体調 不良時は速やかに各医療機関と連携を保ち本人や家族の心身の負担の軽減に努めていきます。 * 年4回(年2回事業所全体)手作り広報誌を地域、家族への発行を行っている。
* 職員の研修会、リフレッシュへの参加を促し、知識、意欲の向上、又リフレッシュにより充実感へ繋げる環 境整備を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

創設時の理念を基に理念や方針の振り返りを検討されています。地域のネットワークが構築されており行政や近隣の施設との連携が図られています。食の安全と家庭料理にもこだわりを持ち、同法人の別事業所で作られたお米や新鮮な野菜が使われています。有料老人ホームや病院からの転居が大半であり、利用者の馴染みの関係が薄いようです。利用者の気持ちに沿った新しい馴染みの関係を構築される必要があると思われます。ケアに対し、熱心に取り組む姿勢が見られます。訪問看護ステーションとの連携もでき見取りの体制も出来ており、今後、事業所の強みとなる部分と思われます。医療と看護の連携を深め、看取りや個々のニーズに合わせた取り組みに期待します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の申し送りやミーティング時間回りの振り返りとして具体的なケアについて統一を図り理念の意義の唱和を行い理念の意義を再確認している。	家庭的でアットホームな創設時の思いを受けて継ぎ、理念を基に全体の目標・努力目標をリビングに掲示され共有されています。理念については見直しを考えられているようです。	法人の理念を踏まえ、地域の特性や利用者のニーズの変化を捉え、事業所や全スタッフのケアのよりどころとなるような理念へと進化していくと良いですね。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	経営者は同事業所と同地区で生活を営んでおり地域の集会や行事等はスタッフも参加したり、事業所の行事には老人会、いきいきサロン・ボランティアの慰問もある。又、職員のレクリエーションの指導もしている。花の苗等の差し入れもある。	地域の方々の訪問があり、利用者との顔みしりとなり、地域での見守りができているようです。職員は地域行事に積極的に参加されているようですが利用者の参加が少ないようです。	地域の住民の一員として、地域の人々と関わりを持ち、日常的な交流ができることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターとの連絡や情報の交換、運営推進会議等で、日頃の認知症ケアの報告、又高齢者や地域の方々の施設(緊急時等)職員の活用、貢献を図りたい旨の提言を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議での検討事項や懸案事項についてその経過を報告し今後の計画を検討している、内容について意見をもらうようにしている。	家族は輪番制となっており、包括支援センター、行政、民生委員、町内会、老人会の参加により定期的に行われていますが、活動報告や行事予定の報告が多いようです。会議の意見として、面会簿に関しての提案がされ改善されたようです。	事業所が地域の方々から、より信頼が深まるよう運営推進会議を上手に活用されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や事業所の行事への参加等も案内を行い、出席してもらっている。介護保険改正に伴う課題解決のための情報の提供をお願いしたり、相談等も行い積極的に連携を取っている。	推進会議に介護保険課の担当者も参加され、徘徊ネットワークができ行政や警察、包括支援センターとの連携により、見守り体制が構築されています。	継続して連携を図られていくことを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホーム部会の研修の参加を積極的にいき、知識の向上に努めている。事業所でのミーティング等で身体拘束の禁止の確認、誘発する原因の除去により身体拘束に繋がらないよう取り組んでいる。	月1回のグループホームの部会や事業所内でのミーティングで何が拘束にあたるのか、具体例をあげ対応を考えられています。	気づかないうちに身体拘束となり得ることもあります。介護方法の振り返りを定期的に検証されることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム部会、他機関の研修会に参加し、事業所内のミーティングで虐待防止の確認をしている。又理解を深め遵守に向け取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループホーム部会の研修に参加し制度について学ぶ機会を持っている。関係者と情報や意見の交換を行い理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、事業所のケアに関する考え方や取組み等、退居をふくめた対応を可能な範囲について説明を行う。利用者・家族の不安等を感じた時は随時十分な説明を行い理解、納得、同意を得られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に2か月に1回参加可能な月に輪番制で担当になってもらい、運営推進会議、家族会の中で意見や要望をお聞きしできる限り職員へも情報を提供している。内容に関しても検討を行っている。	年1回の家族会や面会時に意見や要望を尋ねられているとのことです。家族会の意見で会費の中から誕生会にケーキを買うよう提案があり実行されています。	事業所への苦情や意見を出しやすい工夫することで、利用者、家族だけでなく、地域にも信頼できる事業所となっていくのではないのでしょうか。苦情への対応の公開もその一つと考えます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会や勉強会、ミーティングの中で意見や要望を聞き、話やすい場面を作り他部所との交流も兼ね選出によりリエクレーション委員を設け他部所との交流の場を作っている。必要時は個人面談を行い相談しやすい機会を作っている。	業務改善などで職員の休憩時間の確保や効率的な申し送り等の要望を受け入れ、見直しをされています。また、職員へのアンケート結果を基に個人面談も予定されています。	業務改善された内容等を具体的に会議録に残されると、今後の見直しの参考にもなると思われれます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	健康な職場環境の整備、職員の人員確保、柔軟な対応で希望による休日の取り方、無理のないシフト作り。楽しく・やりがいのある職場をモットーに働き甲斐のある職場作りに努めている。資格取得の支援も図る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員を各部所より選出し部会の研修、他機関の研修の場を作り参加できるようにしている。参加者は研修の記録の提出することで再度、意識・知識の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八代ブロック連絡協議会が管理者、職員の研修会毎月開催。他施設等の相互研修・交流会を通じて他事業所の意見、体験等情報収集し質の向上やケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の相談があった時は、出来る限り本人と面会。心身の状況、思いに向き合い、又職員も受け入れられるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの家族の関わりの中での大変さや利用されていたサービスの状況、経緯等をゆっくりと聞くようになっている。話を聞くことで家族の困っていること、不安等の状況の把握を行い信頼関係につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の思い、家族の思い状況を確認し不安な事、困っていることの改善に向けた支援の提案、相談を繰り返しながら、担当ケアマネと連携を取りつつ必要に応じ他のサービスにつなげるようになっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活に於いて言葉、態度、行動の観察により、得意分野の見極め、力の発揮、達成感、満足感を得られることで意欲につながりやすいような場面の声掛けをするようになっている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いを受け止め寄り添い、日々の生活に於いて出来事や気づきの情報の収集に努め家族と同じような思いで支援していることを伝え 共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から馴染みの理容室、美容室へ家族と共に行き時には食事を共に楽しめる。また、知人等の訪問時には、居室でお茶を一緒に楽しめるような環境作りに努めている。	生活歴を参考にして馴染みの関係を把握されています。元職場の同僚の面会もあるようですが、病院や有料老人ホームからの入所が多いのためか、馴染みの関係の継続が薄い様です。	趣味や特技を生かした新しい馴染みの関係をつくる事も検討されてはいかがでしょうか。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	心身の状態や気分・感情で日々変化があるので職員の注意深い観察により、利用者同士の関係がうまくいくように情報を連携、共有しながら調整役となり支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他事業所へ転居された後も家族からの相談や情報提供をしたり、必要に応じて他事業所の担当者へ利用中の関係性の情報を提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々声掛けを行い言葉や表情などから確認するようにしている。意思疎通の困難な方からは家族や関係者からの情報を得るようにしている。	プランの更新時や入居の際に聞き取りをされたり、日々の暮らしの中から情報を把握されているようです。	その時々新たな情報を記録に残す工夫があるとよいですね。また、本人の活動性を高めることで新しい思いを知ることが出来ます。活動性や行動を広げる取り組みに期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に、ご本人や家族・関係者などから聞き取るようにしている。生活歴や馴染みの暮らし、生活環境、サービス利用状況等を聞き取り利用後本人より聞き取りしたり、家族の訪問時少しずつ把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの暮らし方や生活のリズムを把握し言動、行動を感じ取り、できること・好まれることを把握していただけることへの参加の声掛けを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者やご家族の日頃の関わりの中で思いや意見を聞き反映している。課題となる事をスタッフと話し合い、介護計画の作成に役立てている。	介護計画の一連の流れはできていますが、ケアプラン、介護計画、評価は介護支援専門員が作成されています。個別の計画に苦労されているようです。	介護スタッフの担当制を活かされ、実践的な介護計画を検討されてはいかがでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア記録に(食事、水分量、排泄、他)日々の暮らしの様子をわかりやすく記録している。全ての職員が情報確認・共有し、勤務時間前に再確認するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、通院同行など必要な支援は柔軟に対応し他のサービス利用などの情報提供も随時行い個々が満足できるように努め負担の軽減を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との接点を見出し警察、消防署との連携や老人会、いきいきサロン、踊りのボランティア団体、祭り(花馬の訪問)等を楽しんでもらえるように協力を呼び掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者それぞれのかかりつけ医が訪問診療の継続や、受診は家族同行を基本とし家族へ状態報告を行い、必要時は職員も同行したり、又、主治医へは状態の報告を行い、指示を受け対応している。	これまでのかかりつけ医を継続し、専門医の受診や訪問診療により医療の支援はできているようです。	主治医の所見や指示が家族やスタッフで共有できるよう、情報の交換方法等について再考されてはいかかでしょうか。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と訪問看護ステーションの看護師とは気軽に相談できる関係ができています。看護師と連携医療機関との連携も取れる体制ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関とは、通院同行や状態の報告・相談・指示を受け状態の悪化防止の支援に努め、入院時は支援の状況、服薬関係の資料・情報を提供、退院時は回復状況等を関係者に伺い家族と情報交換しつつ、退院後の支援に役立っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所が対応できる最大のケアの説明を、家族と話し合い、利用者が安心して終末期を過ごせるように取り組み、状態観察、情報の共有を職員間で図り急変時や体調変化時に医療機関へ連絡を迅速に対応、指示を受ける連携を確保。	入所時に重度化した場合や看取りの対応について、本人・家族の意向を確認され書面にて同意を得られています。訪問診療や訪問看護ステーションと連携を図り看取りの体制は出来ています。自宅での看取りに職員が交代で訪問する等、柔軟な対応をされています。	看取りについての同意書は、状態の変化に応じて見直しや再確認も必要となるでしょう。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会へ参加をすることで医療関係からの資料を元に事業所内での緊急時の対応等の勉強会をし、初期対応、等の実践力が身につくように再確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災、消防訓練を消防署と連携を図り、隣接の事業所と合同で行う。決定時間内の火の使用・避難手順・場所再確認へとつなげ運営推進会議でも情報の提供をして地域の協力が築けるようにしている。	防災訓練を年2回実施されており、併設施設の応援や地域消防団との協力体制もできています。夜間を想定した訓練も行われています。地域の緊急避難場所にもなっているようです。	地域の防災拠点としての役割にも期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	月1回の勉強会やミーティング等で職員の意識向上を図るとともに日々の関わりの中で利用者の誇りやプライバシーを損ねない声かけや対応の徹底を図っている。	日々のケア時の言葉使いや排泄誘導の声かけにも注意されているようです。入浴も一人ひとり個別対応にて実施されています。また、広報誌等での写真使用についても事前に本人家族の同意を得られています。	日常的な確認と改善に向け事業所全体で取り組まれることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の一人ひとりの意思決定ができるような環境作りを心がけているが意思表示困難な場合は表情や言動の小さな動き等で汲み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが利用者の体調や気分、思いに配慮しながら柔軟に対応するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二か月に一回訪問理美容で思いの髪形をされる。個々の希望や生活習慣に合わせた支援をし、行動の時や、日頃もおしゃれを楽しんでもらえるような環境をつくっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前、食後の台拭きで準備や片付けを一緒に行っている。おやつ作り等も無理のないよう安全にできる範囲の作業を一緒に行い、作る、食べる楽しみの支援を行っている。	季節ごとの行事食の提供や、天気の良い日はおやつ持参で外出し、食を楽しむ工夫をされています。また週1回は職員と一緒に手作りのおやつを楽しまれています。家庭的な料理で食器や新鮮な食材にも気を使われています。	懐かしい家庭料理の味わいを感じます。食の楽しみが継続できるよう希望します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に合わせた水分量をDrに相談して一日分の水分量の確保も兼ね好みの飲み物等の提供支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛け誘導、個々の機能に応じた(義歯)歯磨きの支援を行い、夜間は義歯を預かり洗浄施行している。起床時はお茶うがいを遵守している。必要時は、訪問歯科診療支援の協力体制も整っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を見ながら、時間を見計らい声掛け、誘導しトイレで排泄ができるように支援している。利用者様一人ひとりの排泄パターンを把握し体調、状態の観察、排泄状態の情報を共有する。	利用者の排泄パターンを把握し、出来るだけトイレでの排泄を目指されています。このことからオムツ、リハビリパンツ類の発注量が減ってきているようです。取り組みの成果が見られます。	トイレでの排泄が増えることは排泄の自立度が高くなっていると思われまます。今後も排泄ケアの向上に期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、個々の時間、習慣、量の排泄パターンを把握し、乳製品を取り入れて水分の確保を計り、体操や散歩(歩行)等で動かす機会を設け、自然排便できるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の体調や状況により随時入浴の声掛けの確認をし拒否の時は時間を置き意思の再確認する。又、場合により違うスタッフの声掛けにて対応する。一人ひとり利用者の入浴の好みを把握し希望に沿った入浴の支援をする。	週3回午後よりの入浴を行い、利用者の要望に合わせて入浴の方法や洗身の順も対応されいるとのこと。回数や時間にこだわらず、本人の仕草や要求を察知し入浴支援が行われています。	より快適に入浴を楽しまれる工夫を期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や湿度など体調や季節に応じて調整し入眠できる環境作りをしている。休息は声掛けし本人の希望で居室や和室などで静養して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬について、変更・増減時随時申し送りノートに記載したり申し送り時口頭で伝達したり注意点の情報の共有を図り、状態や症状の観察を行うようにし気づきにつなげている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を発揮してもらえるように無理なく楽しみながらできることをお願いし利用者の経験、知恵を発揮してもらい、気分転換をはかり一緒にいながら感謝の気持ちを伝えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の気分や体調に合わせて日常的に散歩等を行い、また、戸外へのドライブも、できる範囲で出かけてもらい、季節行事や、四季を感じてもらい気候の移り変わりを感ぜてもらっている。	ひな祭りのひな飾りの見学に行かれたり、戸外で気持ち良く過ごせるよう、季節ごとの外出をされています。日常的に近くの施設にも訪問されていますが、職員は全ての利用者の外出に困難さを感じられているようです。	一人ひとりの生活歴から住んでいた地域や馴染みの場所や思い出の場所に出かけられるような支援が出来れば、単調になりがちな生活にも変化が生まれるのではないのでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人希望や、家族の協力のもと、少額のお金を持っておられる方もいる。気分転換として、神社等へ外出時、職員支援のもと賽銭をあげたりする方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望により電話での会話などに応じたり状態を見ながら、職員から電話をかけ、声を聞かれ安心に繋がるように支援する。また、手紙が届いたら返事を書かれるような支援の声掛けをする。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアから中庭の季節の草花等、道路を走る車、人等の景色が見える。台所からの調理の音、匂い、が楽しめ、壁面には季節の行事ごとの折り紙などの作品を掲示し季節を感じてもらえるような空間作りをしている。	共有空間のリビングには神棚や畳の間があり、ソファが設けられています。また、中庭の花は見て楽しむだけでなく、季節ごとに利用者と一緒に植え替えも楽しめるような作りに考えられています。窓からは長閑な田園風景が見られます。	季節感のある空間づくりや飾り付け等の工夫をされると良いでしょう。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日頃の関係性や相互関係等を配慮し気の合った利用者同士または一人でも思い思いに過ごしてもらえる空間作りを提供するようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた、家具、写真、使い慣れた小物等を本人、家族と相談しながら、居心地よく穏やかに過ごせる工夫をしている。	家具の持ち込みは自由になっています。身体状況に合わせ畳の部屋も準備されています。持ち込みの物品が少なく清潔感はありませんが、生活感が少ないように思われます。	部屋でゆっくりとその人らしい時間を楽しまれることの工夫も今後は検討されてはいかかでしょうか。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ること、わかる事、状況に合わせて環境作りを行い、状態変化時は、新たな混乱や失敗が生じないようにその都度職員一同、家族と共に話し合い状況に合わせた環境整備を行っている。		